まちづくりひろしま
被爆１００年(西暦2045年)の姿をめざして

第３０号（平成２９年７月１５日）
読者数：５８９名（募集中）
ﾒｰﾙ：hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp
〒733-0002　広島市西区楠木町 1-9-7
発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二
配信元：広島アイデアコンペ実行委員会
ご提案・ご意見等は、こちらまで

□ 巻頭言

蘇（よみがえ）れ！広島平和記念都市建設法

広島アイデアコンペ実行委員会事務局
瀧口信二

第３回平和祭
（右側に２代目平和の鐘）

来たる８月６日に３回目の『響け！平和の鐘 祈念式』が催され、今年から新たに作られたテーマ曲「鐘よ、平和の鐘よ」が合唱される。初回は、昭和２４年の第３回平和祭（現在の平和記念式典）に使われて以来、「鳴らずの鐘」として放置されていた鐘を６６年ぶりに蘇らせたいという願いを込めて、平成２７年に実施された。２回目からは、慰霊と平和な世界の実現を願う祈念式本来の姿に戻った。

どうすれば平和な世界を実現できるのであろうか？

平和記念都市建設事業の見直し

広島平和記念都市建設法（略称、平和都市法）は２代目平和の鐘が鳴らされた昭和２４年８月６日に公布・施行された。この法律により、広島市を世界平和のシンボルとして建設することが、国家的事業として位置づけられたのだ。被爆後、廃墟と化した広島のまちは、この法律の精神的な支えにより現在の姿まで復興することができたと言っても過言ではない。

しかし、その平和都市法も段々影を薄め、今やその存在価値が問われている。この法律に基づき、毎年１２月には内閣総理大臣が国会に平和記念都市建設事業の実績を報告している。その内容は、街路・下水道・土地区画整理・公園の各事業の進捗状況を比率（%）で示すのみで、具体的な内容は分からない。その原因は、広島市におけるすべての都市計画事業を平和記念都市建設事業としているからである。この一年で何をやったかが明らかになるように定義し直す時期が来ていると思う。

幸いにも、この法律第２条に「恒久の平和を記念すべき施設その他平和記念都市としてふさわしい文化的施設の計画を含むものとする」とある。これまでの都市計画事業偏重から平和を記念すべき施設等にシフトし、新たに平和記念都市建設事業の内容を見直してはどうか。

例えば、原爆ドームの保存改修や今行われている平和記念資料館の改修等も対象になるであろう。市民の関心の高い旧市民球場跡地の整備も平和を記念すべき施設である。中央公園及びその周辺も長期的な展望をもって再整備が必要となろう。

平和都市法の精神を継承

平和都市法の誕生は、広島市の極度に悪化した財政状況の中で、なんとか立派なまちに復興させたいという先人たちの並々ならぬ汗と努力の結晶である。この法律により、国からの援助が増大したが、ある程度復興した時点で通常の国庫補助率となった。財政的なメリットがなくなってから、行政の中にもこの法律の意義に関心を寄せる職員が減っていると聞く。

この法律の精神は、第１条の「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島

市を平和記念都市として建設する」ことであり、第６条の「市長は、住民の協力により平和記念都市を完成することに不断の活動をしなければならない」ことである。この精神は、先人たちの尽力に報いるためにも、また、広島を「世界の広島」たらしめるためにも継承すべきである。

これからは市が自主的に平和記念都市建設事業の長期整備計画を策定し、その進捗状況を国会に報告できるようにしてもらいたい。広島は核廃絶を訴えるだけでなく、まちづくりの視点からも平和を強くアピールしていくことこそ、世界の平和に貢献する道だと信じている。

２代目平和の鐘は平和都市法制定を記念して市に寄贈されたものである。『響け！平和の鐘 祈念式』が「鳴らずの鐘」を再び響かせたように、平和都市法を蘇らせるために、２年後の法制定７０周年に向けて、この法律の精神を確認する場になることを提案したい。

そして８月６日が、原爆死没者を追悼するとともに、平和都市法に基づいて平和記念都市を建設していくことを誓う日になることを願う。

市民みんなで平和都市法を誠実に進めていくことが、平和な世界の実現の一歩となるであろう。

ひろしまのまちづくりの動き

① 広島駅周辺の開発状況

広島駅自由通路配置図

ＪＲ広島駅の南口と北口をつなぐ自由通路（延長 180 m）は５月末に部分開通し、橋上の新駅舎の利用がスタート。１０月２９日から通路全面と終日の利用が開始される。

自由通路に面した商業施設「エキエ」も１０月から来年春にかけて順次開業予定。

北口側自由通路入口

駅周辺ではすでに南口Ｂブロックに「ビッグフロントひろしま」、Ｃブロックに「エキシティ・ヒロシマ」が民間の再開発事業として完成。それぞれ超高層マンションと商業施設の複合ビルとして南口駅前の顔となっている。

北口の二葉の里地区（通称「エキキタ」）も、医療や商業施設の立地が進み、現在駅前に広島テレビ放送新本社などのビルが建設中。

北口側から見た高層ビル

猿猴川河岸に整備した川の駅とポケットパークも７月下旬からイベント開催や飲食の販売を始めるという。水の都の玄関口として賑わいを作り、ここを発着する水上タクシーの利用者増を狙っている。

さらに平成３０年代半ばまでの予定で、南口の広島電鉄の路面電車を高架で乗り入れ、駅ビルの建替えも計画されている。

北口の再開発ビル建設中

その頃にはマツダスタジアムとＣブロックを歩行者専用橋で結ぶ計画もあり、南北自由通路で駅周辺が一体化され、空中でつながるまちの姿が見えてくる。

ハード面の整備と共に今後はソフト面の充実を図る必要があり、秋頃には民間主導のまちづくり組織「広島駅周辺エリアマネジメント協議会（仮称）」が設立される予定。広島駅、マツダスタジアム、二葉の里の３地区が対象エリアで、現在合同準備会議で検討中。

② セトラひろしまがまちづくり法人の国土交通大臣賞を受賞

国土交通省は、地域の環境や価値の向上のため先進的に取り組んでいるまちづくり法人を表彰している。この度、セトラひろしまが「まちの活性化・魅力創出部門」で国土交通大臣賞を受賞。大イノコ祭りやアリスガーデン・パフォーマンス広場ＡＨ！など、新しい市民文化の創出などの成果を上げていることが高く評価された。

○ 広島の復興の軌跡・人物編（第５回）～荒木　武市長～

～復興後の新たな施策展開を目指して～

昭和 50 年（1975）の初当選から平成 2 年（1990）まで、連続 4 期・16 年間にわたり長期在任した。在任中の大半が高度経済成長であった時代背景や政令指定都市移行に伴う行財政力の強化もあって、復興事業の総仕上げのほか各分野にわたり多様な新しい施策を展開した。

荒木市長は三菱広島造船所で被爆し、その 3 日後、前任地の長崎造船所では元の自分の席で後任者が被爆死している。この痛恨の想いが広島の「復興」と「平和」に政治生命をかける原点となったと云える。

◆　政令指定都市の実現

広域合併を強力に進めた前任の山田市政を受け継ぎ、荒木市長は就任当時から最重点施策として政令指定都市構想を掲げていた。昭和 52 年 3 月の市議会において「昭和 55 年 4 月には政令指定都市として発足することを目途としたい」と表明し、これが公約となった。国の専権事項について自ら期限を切ることは、政治家として大胆であり、かつ危険を伴うことである。人口要件を満足しないこと、府中町の存在で市域が不整形なことが最大の問題であった。

広島市と自治省の折衝は紆余曲折を経た。最終局面で荒木市長と自治大臣とが直接協議を重ね、昭和 54 年 4 月ついに国の内諾を得た。政令指定都市の実現は広島市に財政面をはじめ計り知れない効果をもたらし、アジア大会開催の基盤ともなった。

◆　アジア競技大会の誘致

昭和 53 年 3 月の市議会において「大規模な国際スポーツ大会を開催し、国の特別な補助金を得て都市基盤やスポーツ施設を整備していく」とアジア大会の招致を決断。これを契機に、中国・北京市と激しく競合しつつ 5 年間にわたる招致運動を展開し、昭和 59 年 9 月アジアオリンピック評議会において平成 6 年第 12 回大会の広島市開催が決定された。首都以外の都市での開催は初めてという快挙であった。こうして祇園新道やアストラムライン、広域公園などの関連公共事業が急ピッチで進むことになった。

第 12 回広島大会は、大会史上最大規模となる 42 ヶ国・地域が参加して大成功に終った。しかし、大会の場には大会開催に尽力した荒木市長の姿は既になかった。

◆　西風新都構想の実現

広島市は政令都市の中でも地価が高く、しかも絶対量が不足している。広島市が目標とする多心型都市構造への転換のためにも内陸部、臨海部の開発が重要課題であった。

一方、安佐南区・佐伯区にまたがる西部丘陵地帯には民間開発事業者が所有する大規模な開発適地がある。（13 地区、約 1,300ha）昭和 50 年、広島県は河川・道路などの基盤施設が未整備のため開発凍結方針を打ち出した。

こうした背景を踏まえ、昭和 57 年から広島市は独自に西部丘陵地域の開発マスタープランの策定に取り組んできた。民活ブームの背景のもと運よく昭和 61 年、建設省の「民間活力の活用に関する主要プロジェクト」に選定された。関連公共事業について特別の国の支援が得られ、実現に向けて大きく前進することとなった。構想から 30 余年が経過して新都市は概成したが、「住み」「働き」「憩う」総合自立都市の当初の建設目標が問われる。

◆　強力に展開した緑化運動（植木市長）

市長に就任すると、いち早く被爆都市復興のため「緑は、生命を浄化し、平和をはぐくむ」と「緑化宣言」を発した。「75 年間は草木も生えぬ」といわれ、広島にとって緑は特別の意味を持っている。市長は「広島の街は、屍の上に整備された都市であり、緑は広島を形づくる基本要素である」とも語っている。「植木市長」と揶揄(やゆ)されながらも積極的に緑化推進した根源思想である。その努力は昭和 59 年、「緑の都市賞・総理大臣賞」受賞という形で実を結んだ。

今日の水清く緑豊かな街の姿は、平和都市にふさわしい風格を備えてきたと云えよう。

◆　先進的な都市美計画・文化政策

市長就任の頃、二度にわたる石油ショックにより“都市全体の美しさに配慮した人間中心の都市づくり”へと大きく転換した時代であった。昭和 54 年から 2 か年計画で、広島市は“美しいまち広島”を創造するために「都市美計画」策定に着手した。都市美を行政の対象として真正面から取り上げることは意欲的で先進的な動きであった。その結果、公共施設整備にも一層の都市美的配慮がされたほか、彫刻のある街づくり、景観協議制度などが動き始めた。

また、同時期に広島市文化懇話会を設置し、行政の文化化や文化振興策などが検討され、この懇話会から比治山芸術公園のほか市民文化プラザ、地域文化館などの具体的な提言がされた。

◆　**安佐郡三篠町（現在の西区）出身。昭和 15 年 3 月東京大学卒業後、同年 4 月三菱重工業㈱入社。広島市議会議員（1 期）、広島県議会議員（3 期）を経て、市長挑戦 3 回目で昭和 50 年 2 月広島市長に初当選し、平成 2 年まで在任。平成 6 年 6 月逝去、享年 78 歳**

＜参考文献＞荒木武著「ヒロシマを世界へ」（ぎょうせい、昭和 61 年）
荒木武追想録（追想録刊行委員会、平成 11 年）ほか。

（編集委員　高東博視）

広島平和記念都市建設法が可決成立後の国会議事堂前
（昭和 24 年 5 月、前列左端）

□*ほっとコーナー*

『母が残した宝物』

広島文化学園女子短期大学 コミュニティ生活学科　准教授
ラピスラズリ代表　烏田いづみ

２０１７年も半分終わってしまいました。旧暦の６月末夏越の祓という行事があります。「**夏越の祓**」は、半年分の穢れを落とす神社の行事で、残り半年の健康と厄除けを祈願します。今年私は様々な体調不良に悩まされ、夏越の祓には、雨が降ろうが槍が降ろうが必ず神社へ馳せ参じようと心に決めています。何より１月末母を 87 歳で見送り、心にも大きな傷ができたようで、未だにヒリヒリしている状態なのです。

母を失ってみてどんなに自分の性格形成や趣味嗜好に影響があったか、今更ながら気づきました。私は３０年コーディネーターという肩書で仕事をしています。テーブル・フード・空間・店舗・ブライダル等のコーディネートの仕事です。

３歳ぐらいから器・絵の展覧会（あまりにも退屈で脱走したこともありますが）に連れ回され、中学生でフランス料理、お茶。高校生で歌舞伎やオペラと、ちょっと早熟な様々な文化に触れさせた母の刷り込みの教育が、私をこの仕事に導いた。と思ってしまいます。

そんな母が残した茶道具達・・。しまいこんでしまっていましたが、なんだかもったいない。片付けながら、本来の使い方ではない方法で日常のシーンに登場させてしまおうと決意。

上の写真はお茶の風呂先屏風。通常はお点前の道具の後ろに立てる屏風で、道具を引き立てたり保護するためのもの。それを、今回お花のアレンジの背景に使いました。それもテーブルの上に置いて・・

下の写真は漆の水指をコーディネートしたもの。本来水指は茶釜に水を足したり、茶碗や茶筅を洗う水を入れておくための器。

「ごめんなさい母上様。ある時は花を入れ又ある時はワインクーラーとしてワインを入れてしまっています。

方法は違えども、日本文化の美しさ、素晴らしさを必ずや後世に伝えて行きますから。これもあなたの教育の賜物・・・」

そっと写真に手を併せていると母の声が聞こえてきました。いつも言われていたセリフ。「ちゃんとしなさい。ちゃんと！！」

○「時代を語り建築を語る会（第１７回)」報告

語り人：藤本昌也氏（現代計画研究所会長）

～基町再開発をどのように発想・デザインしたか～

建築家大高正人の下で、基町再開発計画に携わった経験を中心に大高正人の『思い』を振り返り、『今』の課題を熱く語る。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会（代表：石丸紀興）

日時：2017 年 6 月 2 日（金）18:30～20:30

場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ

略歴:広島市出身
1962 年早稲田大学修士課程修了後、10 年間大高正人に師事
1972 年現代計画研究所を設立、現在会長

☆ 大高正人の人物像―社会思想家と建築家の葛藤

・1960 年代の高度経済成長期に主流であった楽観的なモダニズムに懐疑的。当時流行ったメタボリズムの建築思想で建築やまちづくりが進められることに警鐘を鳴らす。

・建築家には天空派と大地派があり、大高は大地派。天空派は高みに立って唯我独尊的な建築論を展開する人。大地派はその土地固有の自然や歴史・文化など地域に根差した建築づくりをする人。

・建築家の役割は、建築づくりを通して人々の幸福な世界を構築すること。一番大事なことは、デザインの出来栄えではなく、そういう「基本的スタンス」を堅持しているか否かである。

・被爆により困窮した人たちの生活環境を救済するという基町再開発が、社会的な共有財産となることを目指して、厳しい条件のなか果敢に取り組む。

・生涯自分の作品集を拒む。建築は社会における制作プロセスが大切であり、所有者（管理者)・発注者・行政・施工者・利用者・地域住民など、多くの人が関わって作られるので、自分の作品とは言えない。

☆ 基町再開発計画の要点

・敷地 8.1ha に 3000 戸を収めるという当初の計画条件は市が設定。高層化で対応するしか方法はない。高層高密度の公営住宅の前例がないので、補助メニューを検討するため国のモデル事業に指定。前川事務所時代の公団晴海高層アパートや独立後の坂出人工土地などの実績が評価され、１９６８年に建設省の推挙で大高建築設計事務所が担当することになる。

・仕事を受けて早い時期に、南東・南西向きの大きなスペースが内包できる今の屏風型配置計画案を思いつく。小学校・幼稚園、警察・消防署、地域の店舗等を含めて、住宅を中心としてまちを作るという建築家に突き付けられた大命題でもあった。

・設計の特徴は、高層住宅の居住性の確保と周辺環境と建築の調和をメインテーマに据え、ヒューマンスケールに配慮し、分節化した群造形を追求。階数も 20 階から 8 階まで、北から南に順次下げている。特に広島城の近くは城より低くしている。

・地上はピロティとして開放的にし、屋上も庭園として市民に開放される計画（今は閉鎖)。もともと公園計画地に建てるため、周辺環境に十分配慮し、公共空間を多く導入する。

・将来的なニーズの変化にも対応できるように 2 層 4 戸を 1 ユニットとし、梁は偶数階のみで、柱間に耐震用の筋交いや壁がない。現在 2 戸を 1 戸に広げる改修がなされている。

・工期短縮のため当初の鉄骨鉄筋コンクリート造から純鉄骨造に変更。予算を削減するため、工場製作の鉄骨やプレコンなどは設計者が下請け業者を選定してコスト管理を行う。現在の建築生産システムであるＣＭ（コンストラクション・マネジメント）方式の走り。

・設計中の地元住民との折衝において、中島市会議員の存在が大きい。設計の意図を理解し、責任をもって住民を説得。山田市長も「美しいアパートにして欲しい」と設計案を全面的に支持。二人の存在がなければ、この計画もとん挫していたかもしれない。

☆ 基町高層アパートの今後の展望

・時代の変化に耐えうる構造となっているので、管理運営面のソフト開発に期待。第 3 の公共が建物を所有し、空間の利用権を民間に賃貸するシステムができないか、法律家など専門家を交えて検討してほしい。例えば、広島城側は高級マンションにしたり、店舗フロアを入

れたり、いろいろな可能性が秘められている。
・隣接する中層団地や高層団地内の店舗なども減築して順次公園に戻し、平和記念公園と中央公園の緑が一体となって原爆ドームの世界遺産のゾーンを広げていくビジョンを持っている。
　このエリア一帯が平和の象徴的な空間であって欲しい。

中央公園将来イメージ

☆　今日の一番言いたいこと

・世界共通の普遍的な解を求めようとする近代主義より、地域独自の最適解を求めていく手法の方がよい。２１世紀はグローバリズムとローカリズムの相克。社会思想について哲学的に難しく考えるのではなく、自分の職能と結び付けて日常的に考えて欲しい。

☆　会場からの質疑応答

・ピロティと屋上庭園は公営住宅予算の枠外か？→ピロティは住居部分でないので公営住宅予算ではなく、住宅金融公庫からの融資。屋上庭園の方は特例加算の国の補助を適用。
・最近デベロッパーが不在とは？→地方自治体の財政事情の悪化や「官から民へ」の動きの中で、公的な住宅供給が減少。民間も地方の中小都市では採算が取れない状況にある。また街中の土地は細分化しているので再開発も進めにくい。
・軸線の考え方は？→軸線ありきの考え方は持っていない。南北の海と山に開けたランドスケープに配慮した結果、たまたま住棟配置の間に丹下軸線が入っていた。丹下氏は記念性を尊重するが、大高氏は目線の日常空間を大事にする。
・敷地内の被爆樹ヒノキの扱いは？→大切な宝物であり、被爆樹を残す前提で全体の配置を計画。その土地の特性や物語を継承することも大地派の特徴。
・ヒノキは樹幹で爆心地の方向を指し示し、高層アパートに守られ、共生している。

＊コメント＊

　示唆に富んだ含蓄のある話が聞けた。建築家の職能も時代の要請に応じて変わっていかなければいけない。今の若い人たちも肌で感じていると私も思う。

（編集委員　瀧口信二）

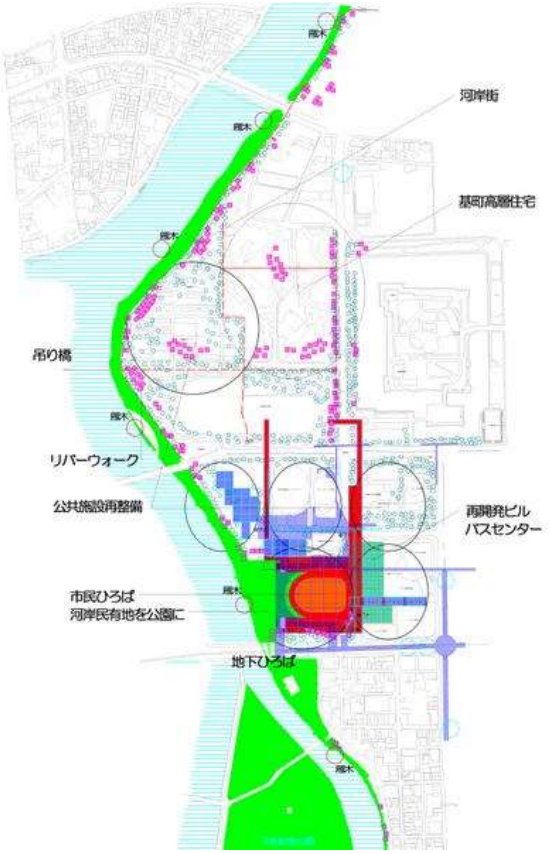
○　*ひろしま市民ひろばの提案！*

　日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会は、平和記念公園と広島市中央公園及びその周辺の被爆 100 年（28 年後）のあるべき姿としてグランドデザイン「ひろしま市民ひろば」を検討している。
　前号までに、①バスセンターの整備、②河岸民有地を公園に（ガラガラポーン再開発事業）、③回遊性の向上、④公共施設の再整備、⑤リバーウォークの拡充、⑥河川街の整備、⑦基町高層住宅の再整備を提案し、その後数回にわたって整備プログラムなどを検討してきた。
　今回は、これらの提案を地下、地上、空中、水上の各レベルで立体的に連結し、夢のある空間とするとともに周辺地区との回遊性を高めるいくつかの提案をしたい。

ステップ７．周辺との回遊性を高める

☆活動の場をつなぐ回遊園路を整備する

　南北２km、東西１km のエリアは、市民の憩いの場として広く利用されている。それぞれの場面をひとつながり動線で結び、併せて観光周遊や散策、ランニングなどテーマを持ったルートを整備する。



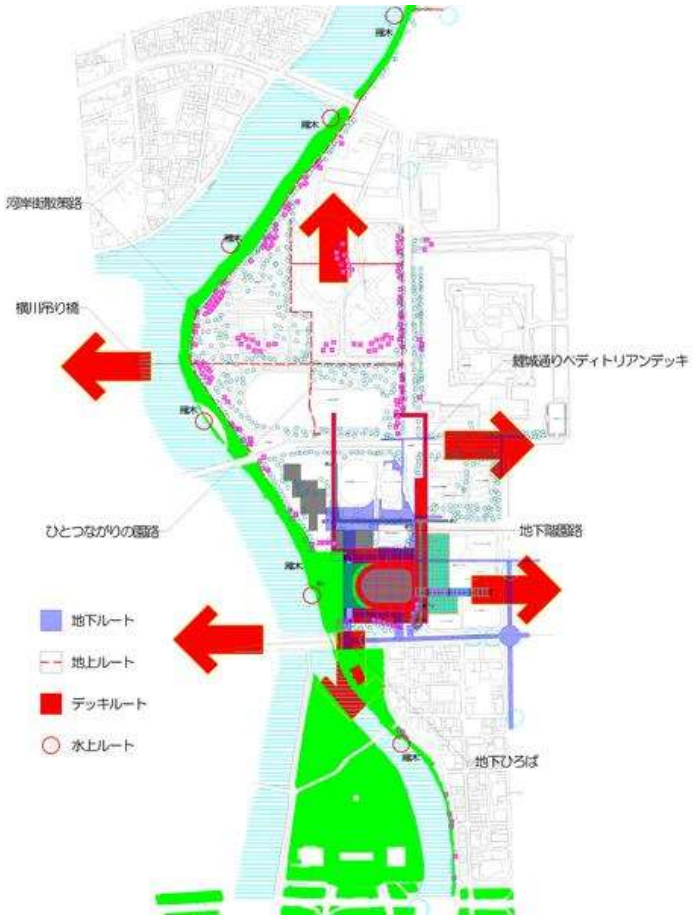
ひろしま市民ひろばの７つの提案

☆雁木を活用して水上交通路を整備する

元安川護岸の雁木(がんぎ)を活用して新白島駅から元安橋東岸までを約 500m 毎に船着場を設け、その周辺に河岸街を集中させる。ここに船による定期航行ダイヤを整備する。すでに運航している雁木タクシーやリバークルーズを雁木バスに発展するのも一案。発展的に縮景園や京橋・猿猴橋と連携しループ航路としたり、乗り換えを利用して瀬戸内海や宮島などとの一体的運用も考えられる。

雁木タクシー

広島リバークルーズ



周辺地区との回遊性を高める動線計画

☆地下ひろばで原爆ドーム・シャレオと結ぶ

平和記念公園に至る原爆ドーム前の電車・車道との交差を解消するため地下通路を整備する。商工会議所ビル等の移転により生じる中央公園とのレベル差を利用し、地下階ひろばとする。

さらに元安川河畔やシャレオの延伸と接続することで、地下レベルのネットワークを形成する。

☆ペデストリアンデッキで鯉城通りとの立体交差

提案３で提案しているが、市民ひろばから県立体育館ゾーンを経由して北側の中央公園や基町住宅ゾーンに進むためには、鯉城通りと交差することとなる。ここまでペデストリアンデッキを延伸して立体交差とし、安全で変化に富んだ動線とする。バスセンターの配置は、整備手順により変化するとしてもこれは必要である。

☆寺町と歩行者専用のつり橋で結ぶ

地域的な都市機能を担う拠点地区としての横川地区からのアクセスを図るため、横川・寺町地区から基町市営住宅あたりへ歩行者専用橋を整備する。写真は、共に神奈川県にあるつり橋で、地域のランドマークとなっている。ひろしまの特性を表現して、木製などはいかがであろうか。

水の郷大吊り橋(316m)

風の吊り橋(216m)

横川歩行者専用橋のイメージ

そもそも、広島の街づくりは被爆によって新しい局面を迎え、戦災復興都市計画に端を発している。そして広島平和記念都市建設法は、ただ被爆都市を復興整備するのではなく、戦争を放棄し、平和国家を建設するための国際平和文化都市を目標としている。

そのために当地区は、公園を利用することにより平和への営み、平和の活動をすることが求められている。ただ憩ったり、祈ったりするだけでなく、そこで生きる喜びや平和を作るためのアートを展開させるなど、市民の活動を育む機能が求められている。

次回は、これまでの提案を総合したグランドデザインを掲載する予定である。

（日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会 前岡智之）

○ こまちなみシリーズ ⑰

金沢市はまちの歴史を色濃く残した、ちょっとした町並みを「こまちなみ」として守り、育てるまちづくりを進めている。これに倣って、広島における残しておきたい「こまちなみ」を探訪し、シリーズで紹介してきたが、市内周辺から広島県内に対象を広げていく。

～竹原･町並み保存地区～

広島バスセンターから「かぐや姫号」に乗って１時間２０分、ＪＲ竹原駅前に着いた。乗客８人、観光客らしき者は私一人。降りて目に入ったのが「観光案内処」、戸を開けて入って「あの、街のパンフ…」と言いかけたところ、中年女性職員が「町並み保存地区に行かれるのですね。ハイ、これが案内地図です」と黄色の蛍光ペンを持って「はい、この前の信号を渡って、商店街を真っ直ぐ行って角に酒屋があります。そこを右へ行ってください。川を渡ったところに『道の駅たけはら』があります。その北側、山に沿った一帯が保存地区です」「やはり『マッサン』の放送の頃に比べたら観光客は減っているのですか？」「さあ、私、最近ここに来たので…、まあ少なくなっているでしょうね」、と意外とそっけない。平日、商店街といってもシャッター通りに近い。言われた通り道なりに行ったところが酒屋がない！後でわかったのだが、実は三叉路を左に行くのだったのだ、という次第でまたまたグーグルマップの手助けで保存地区に辿りついた。

案内図

竹原は室町時代から瀬戸内の交通の要衝として栄えた。京都の下鴨神社の荘園、戦国時代は竹原小早川氏、江戸時代に広島の浅野藩の領地となる。江戸期後半から製塩業と酒造業で栄えた。その頃の豪商の邸宅が町並み保存地区に残っている。

保存地区（国の重要伝統的建造物群保存地区）は国道１８５号の北、本川と寺山に囲まれた一帯である。

まず全体を見るため、保存地区の真ん中あたりにある西方寺への石段を上がる。京都の清水寺を模して造られた「普明閣」から見下ろすとまさに“京の町屋群”、黒く光る瓦屋根が美しい。

全景

保存地区はメインの本町通りと道幅が狭く漆喰壁が往時を偲ばせる大小路、製塩業の盛んな頃は盛り場として賑やかだった板屋小路などからなる。

本町通り

本町通りは北の胡堂から旧笠井邸まで、一キロ、もう少しあるか…、山に沿って緩やかに湾曲している。「どうぞ、お入りください」と言われて笠井邸に上がる。明治５年に建てられた浜主（製塩業）の家。ＮＰＯで管理しているそうだ。二階に上がると、それは見事な「梁」、牛梁と言うそうだ。大木の曲がりもそのままに梁として使っている。

大小路

「持ち主のおられない方も多いのですか？前の角の家も貸家の紙が貼ってありましたが…」「そうですね、持ち主が広島、東京などへ出ておられる方も…」

この地区で指定された家屋は固定資産税の優遇措置もあるが、修理する場合は届け出が必要、その代わり助成金も出るとのこと。

旧笠井邸内部

笠井邸で話をしていると、ピンマイクを付けて「こちらが松坂邸です」と説明する女性の声が聞こえる。外へ出ると観光客１０数人の一団だった。わたしも加わって聞く。

竹鶴酒造正面

「本町通りは江戸後期の道幅、そのままです。その当時としてはたいへん広い!今でも普通車がすれ違うことができます」、なるほど確か

に広い！府中の銀山街道などは軽がやっと一台通れる幅だった。
「ここがＮＨＫの朝のテレビ小説『マッサン』のモデルになった竹鶴政孝の実家。竹鶴酒造です。この石畳の道で島爺役の高橋元太郎が朝、打ち水をする。そこへ主人公、亀山政春役の玉山鉄二が帰って来る、あのシーンですね。わたしも見ましたよ」。
竹鶴酒造は元は製塩業、江戸期に酒株を持って酒造業を始めたそうで、建物も江戸期から明治期までの棟が現存する。江戸期は低く段々と高くなっている。江戸期の建物には二階にも格子が嵌められてる。瓦も古い時代の建物は棒瓦屋根。
竹原格子と言われる格子は各家にあるが、その当時の大工の遊び心も見られる。ハート状のものがある。これはどうもオランダから入ったトランプからヒントを得たのではないか…、ガイドさんはそう説明していた。

わたしは遅い昼飯を醤油屋さんの経営するお好み焼き屋へ。「竹原焼」というそうだが、やはりお好み焼きは広島だ！
帰りのバスはなぜか１時間１０分で広島に着いた。

（編集委員　三宅恭次）

○ *読者からの投稿その１*

旧陸軍広島被服支廠倉庫の保存・活用について

石丸弘枝（広島市西区在住）

県で保存に向けた調査を行うことになっている段階だと思うのですが、前々から自分の思う活用案があり、ぜひ多くの方に知っていただき保存に向けてご尽力いただきたく、投稿する次第です。

峠三吉の詩を黙読するダークツーリズムの場にしてほしいのです。先ず三吉の詩を諸外国語に翻訳し、観光客がスマホやタブレットにそれをインストールできるようにする。そしてそれを薄暗い当時の雰囲気のままのあの建物の中で、床に直接座って黙読してもらう。
スマホやタブレットなら薄暗い中でも読めるし、旅から戻った後もその中に残っているので、ヒロシマのことを忘れないでいてもらえる。
原爆文学の朗読会開催の活動を地元ニュースでよく拝見するのですが、その活動自体は有意義だし尊敬しますが、私はあの場所では黙読だと思います。亡くなり逝く虫の息の人は朗々とは語れない。床に直接座って黙って読むことで、その同じ床で亡くなっていった人たちの気持ちを一人ひとりが想像するべきだと思う。眺めとしても、椅子を並べて朗読会を開催するという光景より、床にうずくまって一人ひとりが詩を読んでいる光景の方が、大勢の負傷者が横たわっていたあの時のあの場所の光景を彷彿させると思うし、いろんな肌の色の人たちが真剣に詩を読み込んでいる姿を目にすれば、世界中のどこにも核兵器など使ってはならないという気持ちが自然と湧いてくるだろうと思うのだ。
平和資料館の中で展示されている物は遺品なので、亡くなった本人の気持ち以上にどちらかといえば、家族の悲しみの方が強く伝わってくるように思う。また遺品展示以外は放射能についてなど学術的説明による展示がほとんどなので、頭で理解するのが先ずメインになる。亡くなった本人たちのその時の気持ちや惨状を詩という形にまとめた峠三吉の文章は、心と頭に同時に訴えかけてくる。核兵器を使用させないもう一つの抑止力として、もっと広く読まれ続けるべきだと思うし、そのための場としてあの建物を保存・活用してほしい。

峠三吉は日本共産党の党員だったが、そのことで彼の作品を紹介するのをためらうのは違うと思う。のちの時代の左翼過激派の行動は、三吉に罪があるわけではないし、詩集の中に多少書き込まれた反米的感情も、今の時代から当時の時代背景を客観的に見れば、十分理解できるものだ。訪れるアメリカ人もそれを理解できないほど心根が小さいわけではないだろう。
ちなみに私個人は無党派です。ただ単に、せっかく残っている被爆建物と文学作品をしっかりと活用しなければもったいない、という思いで述べているのです。
差しつかえなければ、インストールを有料にして被爆建物の保存費用に充ててもよいと思う。

例えばダイジェスト版と完全版を用意し、ダイジェスト版（無料）はその場の限られた観光時間の中で読める程度の中身とし、完全版（有料）は後でゆっくりと読んでもらう。（ちなみに保存費用の捻出といえば、宮島のように観光税の導入も検討するべきだと思う。）

また費用は掛かっても４棟全部保存し、原爆文学の文学館にしたり、地元の学生達の作品を展示したり、観光客と近隣の住民や高校生とが交流したりする場として活用するといいと思う。

○ *読者からの投稿その２*

前号の巻頭言を読んで　　岩月邦文（名古屋市在住）

前号の渡部朋子氏による巻頭言「７２年目からの平和都市」の中の「広島の力を活かすための提言＜３＞―街に歴史を刻む―」を読んで、私なりに浮んだアイデアがありましたので、参考までに投稿させてもらいました。

添付資料の映画「もしも建物が話せたら」は昨年上映されたものですが、建物が使われてきた立場で建物自身の意見や感想を語りかけるというもので、建物の管理者、設計者、利用者にとって深く考えさせられる構成立てになっています。

被爆建物のそばに説明用のプレートを設置するだけでなく、映像化することも一手法として有効なのではと思い、投稿させていただきました。

○お知らせ：第３回　響け！平和の鐘　祈念式

～　みんなで鐘を打ち鳴らそう　～

○ 開催の趣旨

広島市中央公園に、現存する最古の「平和の鐘」がひっそり佇んでいます。この鐘が被爆 70 年、市民有志の手によって 66 年ぶりに広島の空に鳴り響きました。

この鐘を歴史の彼方に忘れ去られることが無いよう毎年、原爆の日に祈念式を開催します。「平和の鐘」を参加者全員で打ち鳴らし、原爆死没者の慰霊と核兵器も戦争もない世界の実現を願います。

昨年の祈念式の様子
（撮影：三宅恭次氏）

○ 式典の概要

① 日　時　　平成 29 年（2017 年）8 月 6 日（日）
　　午前 9 時 30 分～10 時 10 分　（雨天決行）
② 場　所　　中央公園・ハノーバー庭園の南広場
③ 主　催　　響け！平和の鐘　実行委員会
④ 式次第　・あいさつ
　　・黙とう
　　・「ひろしま平和の歌」合唱（広島合唱同好会）
　　・「平和の鐘」各代表者による点打
　　・「鐘よ、平和の鐘よ」合唱
　　（あきたかし作詞・作曲の新曲）
　　・「平和の鐘」点打（約 20 分間）
　　＊参加者全員が順番に鐘を打ち鳴らす

鐘を打ち鳴らす参加者
（撮影：松波龍一氏）

○ 一般市民参加：祈念式には誰でも自由に参加できます
（参加者には祈念式冊子を配布）

○ 実行委員会・連絡先　：　090-8604-7833（高東）

□ 編集後記

丸５年を迎えました

2012 年 9 月、「まちづくりひろしま」第１号の発刊に至った。市民有志による中央公園デザインコンペをきっかけに〝まちづくり”を具体化するためには、関わる市民の参加・同意が基本となるし、市民の参加・同意を得るためには、共に考え、議論し、意識表現する 1000 人の仲間づくりからと考えました。現在までに、第 30 号を数え、発行部数は 580 を超え、少しずつ増えています。メルマガは、**ホームページ　まちづくりひろしま**　にまとめていますので、いつでも検索・再読いただけます。

まちづくりひろしま　http://machizukurihiroshima.web.fc2.com/index.htm

読むから議論する場へ

明日の希望が見えにくくなっている今日、市民の内向き志向はますます進んでいます。そもそも、まちづくりは、個々では成し得ないことを集まり暮らす人々の合意により成立するものであり、内向き志向が進むと、合意をほど遠くし、関心すらもてなくなっていきます。そして、無関心のうちにどこかで決定され、実行されてしまいます。この度の東京都議選は、わかりやすい計画・提案には、民意が起きることを示唆してくれました。こんなときだからこそ、共に考え、議論し、意識表現する 1000 人の仲間が、メルマガをステージに読むから議論する場にしていこうと考えるこの頃です。そこで

まちづくりを読んで考える人達　https://www.facebook.com/groups/1957279127834942/

を開設しました。是非、アクセスして参加してください。

（編集委員　前岡智之）

○お知らせ：「時代を語り建築を語る会（第１８回 ）」開催

- **語り人：衣川知考氏（カオル建設社長）**
- **テーマ：広島地域における住宅リフォームの課題と取り組み**
  ― 耐震性向上、バリアフリー化、断熱性問題等への対応（仮称）―
- 開催日：２０１７年９月２７日（水）１８：３０～２０：３０
- 会　場：合人社ウェンディひと・まちプラザ　研修室Ａ（北棟５階）
  （旧広島市まちづくり市民交流プラザ）
- 会　費：１０００円（資料費・会場費）、学生・院生は無料
- 参加申込の連絡先：広島諸事・地域再生研究所
  電話/FAX：082-223-7226 メールアドレス：nisimar5@hotmail.com
- **主　催：時代を語り建築を語る会実行委員会（代表　石丸紀興）**

＊メルマガを読まれての感想や質問及びひろしまのまちづくりについて

皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください！

（投稿は５００字程度以内でお願いします）

編集委員

石丸紀興　広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視　心豊かな家庭環境をつくる広島２１理事
瀧口信二　広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷　章　ガリバープロダクツ代表
前岡智之　中国セントラルコンサルタント代表
三宅恭次　元中国放送役員